

経済倶楽部便り

◆東京◆ 今号掲載の小峰隆夫・法政大学教授のご講演にあった「サンクコスト sunk cost」という考えはなかなか含蓄のある指摘でした。失敗と判断された政策や買ひ物は「サンクコスト」としてそこで遮断し、後に引きずらないようにする。そうすることが無駄や損失のさらなる拡大を防ぐというものです。相場の世界でも「見切り千両」とい表現がありますが、こうした視点は経済政策だけでなく事業経営や資産運用、さらには日常生活にも通じます。

2月入会の新会員をご紹介します。山田晴彦・日本たばこ産業執行役員法務責任者、田中

康久・尾張屋土地常務取締役、遠藤俊三・東洋経済新報社取締役の3名です。

4月の講師は以下の方を予定しています。寺島実郎・日本総合研究所理事長、伊藤元重・東京大学大学院教授、三品和広・神戸大学大学院教授、上野泰也・みずほ証券チーフマーケットエコノミストです。

◆中部◆ 名古屋の冬の風物詩、北西の方角から吹く「伊吹おろし」を肌を感じながら、名古屋駅周辺を見回すと年内完成予定の3つの高層ビルが目に入ります。先々にはリニア駅の工事もあり、駅周辺の建設工事は当分活況です。

4月の講師は株式投資戦略で澤上篤人・さわかみ投信会長、国際情勢分析で吉崎達彦・双日総合研究所副所長を予定しています。(日暮良一)